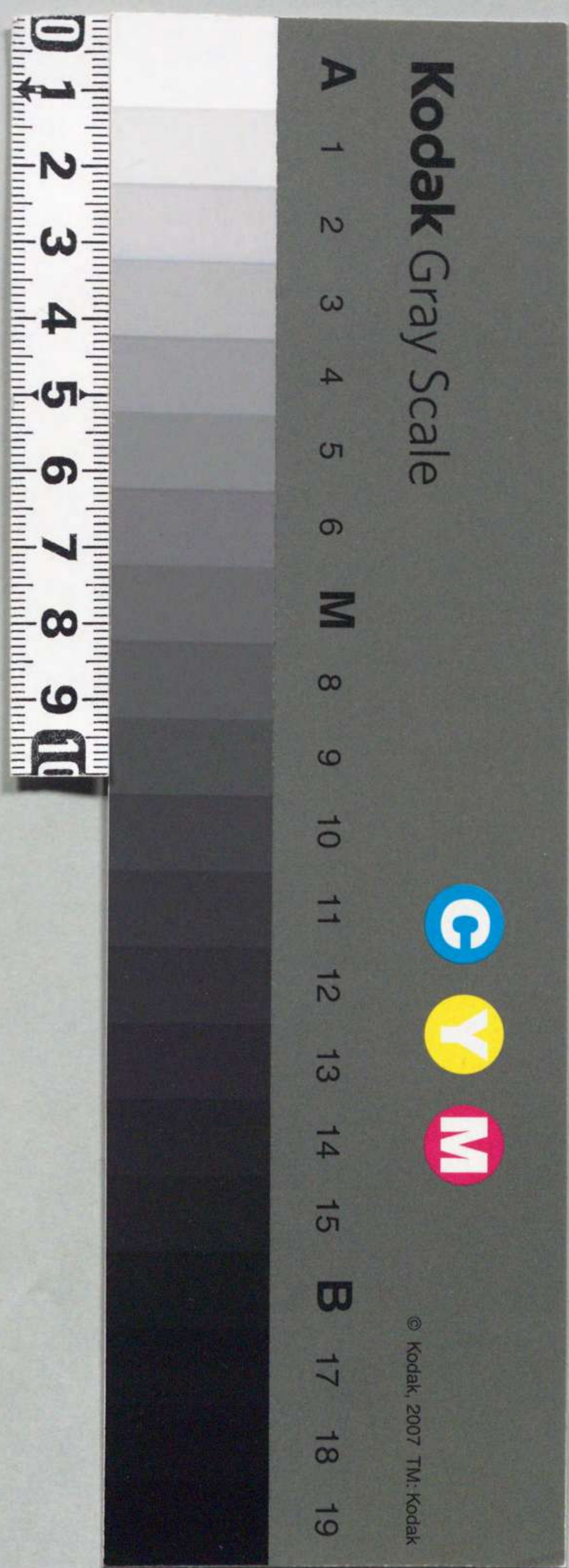
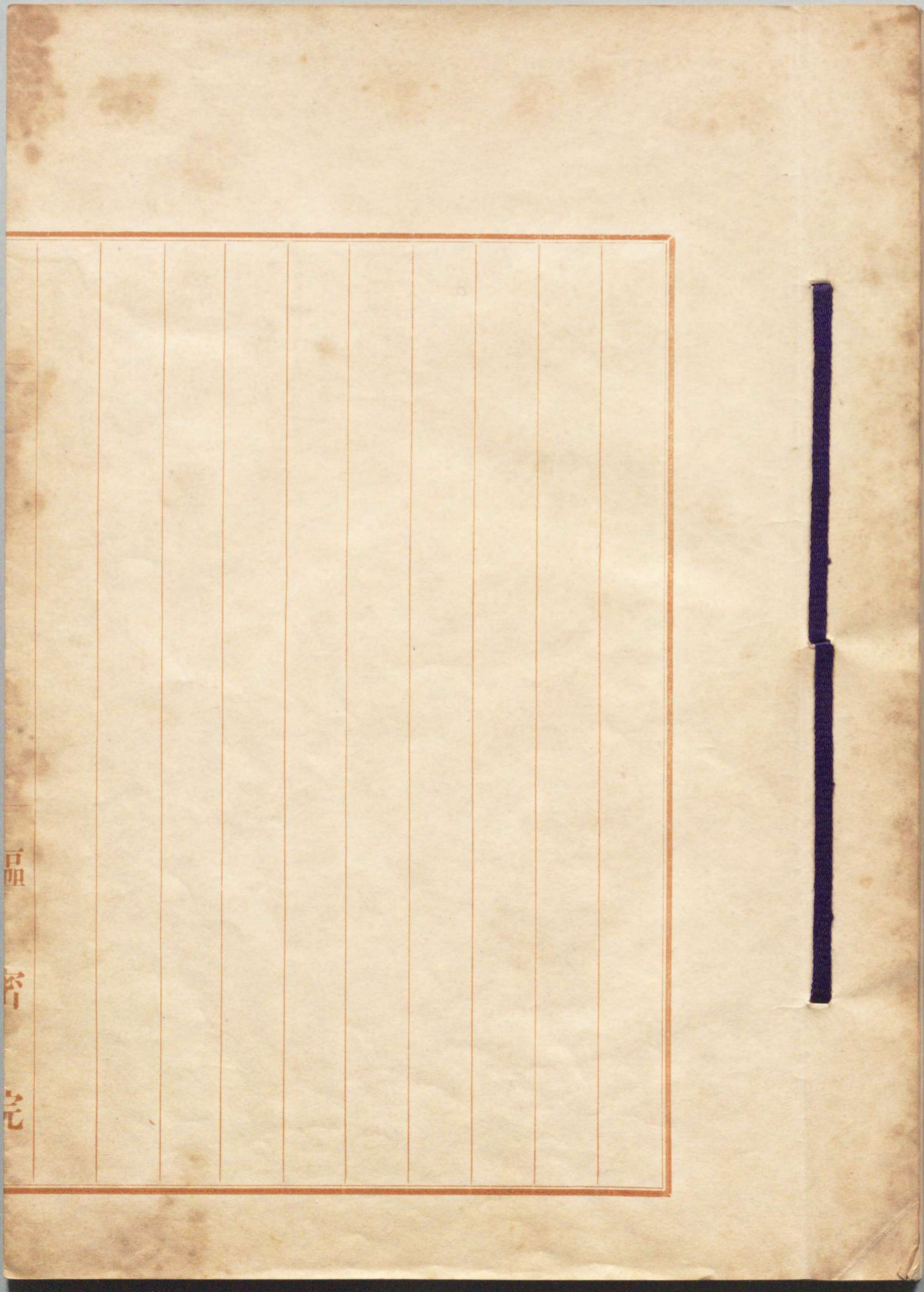
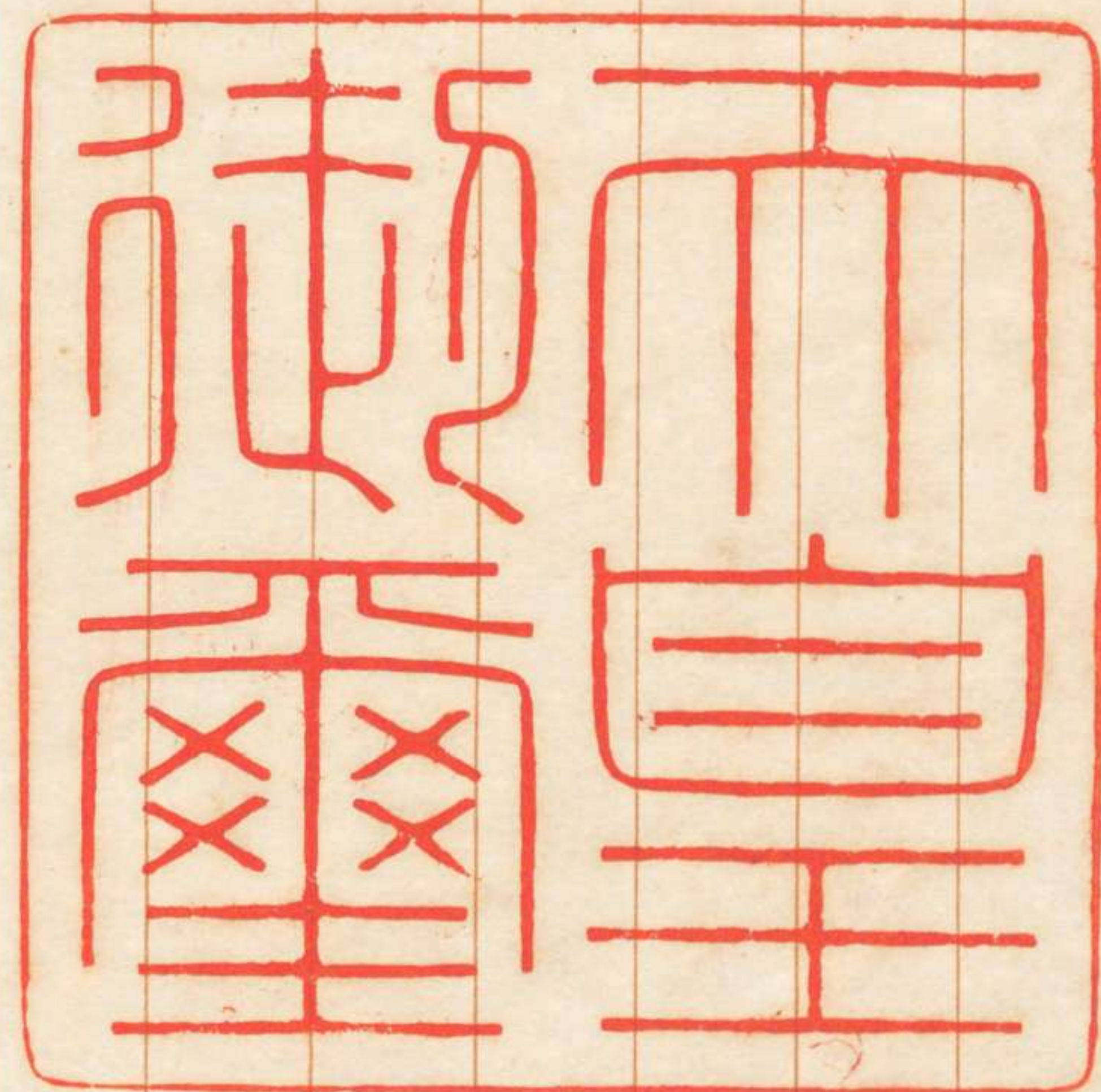




天佑ヲ享有シタル我カ日本帝國ノ寶
祚ハ萬世一系歷代繼承シ以テ朕カ躬
ニ至ル惟フニ祖宗肇國ノ初大憲一々
ヒ定マリ昭ナルコト日星ノ如シ今ノ
時ニ當リ宜ク遺訓ヲ明徴ニシ皇家ノ
成典ヲ制立シ以テ丕基ヲ永遠ニ鞏固
ニスヘシ茲ニ樞密顧問ノ諮詢ヲ經皇
室典範ヲ裁定シ朕カ後嗣及子孫ヲシ
テ遵守スル所アラシム

睦
仁



明治二十二年二月十日

皇室典範

第一章 皇位繼承

第一條 大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシ
テ男系ノ男子之ヲ繼承ス

第二條 皇位ハ皇長子ニ傳フ

第三條 皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ
傳フ皇長子及其ノ子孫皆在ラサルトキ
ハ皇次子及其ノ子孫ニ傳フ以下皆之ニ
例ス

第四條 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出

ヲ先ニス皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ
皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル

第五條 皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟
及其ノ子孫ニ傳フ

第六條 皇兄弟及其ノ子孫皆在ラサルト
キハ皇伯叔父及其ノ子孫ニ傳フ

第七條 皇伯叔父及其ノ子孫皆在ラサル
トキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ
傳フ

第八條 皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ

先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニ
ス

第九條 皇嗣精神若ハ身體ノ不治ノ重患
アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會
議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼
承ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第二章 踐祚即位

第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚
シ祖宗ノ神器ヲ承ク

第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於

テ之ヲ行フ

第十二條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ從フ

第三章 成年立后立太子

第十三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス

第十四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス

第十五條 儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇

太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス

第十六條 皇后皇太子皇太孫ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

第四章 敬稱

第十七條 天皇太皇太后皇太后ノ敬稱ハ陛下トス

第十八條 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王王妃女王ノ敬稱ハ殿下トス

第五章 攝政

第十九條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク

天皇久キニ亘ルノ故障ニ依リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

第二十條 攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス

第二十一條 皇太子皇太孫在ラサルカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ左ノ順序

ニ依リ攝政ニ任ス

第一 親王及王

第二 皇后

第三 皇太后

第四 太皇太后

第五 内親王及女王

第二十二條 皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從フ其ノ女子ニ於ケルモ亦之ニ準ス

第二十三條 皇族女子ノ攝政ニ任スルハ

其ノ配偶アラサル者ニ限ル

第二十四條 最近親ノ皇族未タ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ他ノ皇族攝政ニ任シタルトキハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除クト雖皇太子及皇太孫ニ對スルノ外其ノ任ヲ讓ルコトナシ

第二十五條 攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身體ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ

經テ其ノ順序ヲ

第六章 太

第二十六條 天

キハ太傳ヲ置キ

第二十七條 先帝遺命

サリシトキハ攝政ヨリ

顧問ニ諮詢シ之ヲ選任

第二十八條 太傳ハ攝政

任スルコトヲ得ス

第二十九條 攝政ハ皇族會議及樞密顧問

其ノ配偶アラサル者ニ限ル

第二十四條 最近親ノ皇族未タ成年ニ達

セサルカ又ハ其ノ他ノ故ニ由リ他ノ

皇族攝政ニ任シタルトハ後來最近親

ノ皇族成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除

クト雖皇太子及皇太子ノ對スルノ外其

ノ任ヲ讓ルコト

第二十五條 攝政タルヘキ者精

神若ハ身體又ハ重大ノ事故

アルトキハ皇太子及樞密顧問ノ議ヲ



經テ其ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第六章 太傳

第二十六條 天皇未タ成年ニ達セサルト

キハ太傳ヲ置キ保育ヲ掌ラシム

第二十七條 先帝遺命ヲ以テ太傳ヲ任セ

サリシトキハ攝政ヨリ皇族會議及樞密

顧問ニ諮詢シ之ヲ選任ス

第二十八條 太傳ハ攝政及其ノ子孫之ニ

任スルコトヲ得ス

第二十九條 攝政ハ皇族會議及樞密顧問

ニ詔詢シタル後ニ非サレハ太傳ヲ退職
セシムルコトヲ得ス

第七章 皇族

第三十條 皇族ト稱フルハ太皇太后皇太
后皇太后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃
親王親王妃内親王王王妃女王ヲ謂フ

第三十一條 皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテ
ハ男ヲ親王女ヲ内親王トシ五世以下ハ
男ヲ王女ヲ女王トス

第三十二條 天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承

クルトキハ皇兄弟姉妹ノ女王王タル者
ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス

第三十三條 皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ
宮内大臣之ヲ公告ス

第三十四條 皇統譜及前條ニ關ル記録ハ
圖書寮ニ於テ尚藏ス

第三十五條 皇族ハ天皇之ヲ監督ス

第三十六條 攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ
攝行ス

第三十七條 皇族男女幼年ニシテ父ナキ

者ハ宮内ノ官僚ニ命シ保育ヲ掌ラシム
事宜ニ依リ天皇ハ其ノ父母ノ選舉セル
後見人ヲ認可シ又ハ之ヲ勅選スヘシ

第三十八條 皇族ノ後見人ハ成年以上ノ
皇族ニ限ル

第三十九條 皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨
ニ由リ特ニ認許セラレタル華族ニ限ル

第四十條 皇族ノ婚嫁ハ勅許ニ由ル

第四十一條 皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅
書ハ宮内大臣之ニ副署ス

第四十二條 皇族ハ養子ヲ為スコトヲ得
ス

第四十三條 皇族國疆ノ外ニ旅行セムト
スルトキハ勅許ヲ請フヘシ

第四十四條 皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル
者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨ニ依リ
仍内親王女王ノ稱ヲ有セシムルコトアル
ヘシ

第八章 世傳御料

第四十五條 土地物件ノ世傳御料ト定メ

タルモノハ分割譲與スルコトヲ得ス

第四十六條 世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮内大臣之ヲ公告ス

第九章 皇室經費

第四十七條 皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム

第四十八條 皇室經費ノ豫算決算検査及其ノ他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル

第十章 皇族訴訟及懲戒

第四十九條 皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判負テ命シ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス

第五十條 人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ訟廷ニ出ルヲ要セス

第五十一條 皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ

得ス

第五十二條 皇族其ノ品位ヲ辱ムルノ所
行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順ヲ缺クトキ
ハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ
皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若ハ
剥奪スヘシ

第五十三條 皇族蕩産ノ所行アルトキハ
勅旨ヲ以テ治産ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財
者ヲ任スヘシ

第五十四條 前二條ハ皇族會議ニ諮詢シ

タル後之ヲ勅裁ス

第十一章 皇族會議

第五十五條 皇族會議ハ成年以上ノ皇族
男子ヲ以テ組織シ内大臣樞密院長宮
内大臣司法大臣大審院長ヲ以テ參列セ
シム

第五十六條 天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又
ハ皇族中ノ一員ニ命シテ議長タラシム

第十二章 補則

第五十七條 現在ノ皇族五世以下親王ノ

號ヲ宜賜シタル者ハ舊ニ依ル

第五十八條 皇位繼承ノ順序ハ總テ實系

ニ依ル現在皇養子皇猶子又ハ他ノ繼嗣

タルノ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ

第五十九條 親王内親王王女王ノ品位ハ

之ヲ廢ス

第六十條 親王ノ家格及其ノ他此ノ典範

ニ牴觸スル例規ハ總テ之ヲ廢ス

第六十一條 皇族ノ財産歳費及諸規則ハ

別ニ之ヲ定ムヘシ

第六十二條 將來此ノ典範ノ條項ヲ改正

シ又ハ増補スヘキノ必要アルニ當テハ

皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅

定スヘシ

品
密
院

棚
密
院

相
答
附